



Republic of
Ghana
03

いろいろな人の生き方を知ろう!

～ガーナ編～

村木 啓司

下関市立江湾小学校

●実践教科等/総合学習・学級活動
●時間数/7時間

●対象学年/小学6年生
●対象人数/68名



100人以上の笑顔の写真を用いた導入が素晴らしい。この授業で、きっと子どもたちの生き方が変わる、と感じられる。

◆カリキュラム

- 【実践の目的】
- 今回、夏季休業中に行われた教師海外研修に参加し、アフリカのガーナの地で実際に見て聞いて感じたこと、考えさせられた事などを本校の児童、特に来年度中学校に進学する6年生に伝える。
 - 著しい格差社会の中で生きている現地の子供達の様子や、彼らが大人になって生きていかなければならないガーナという国の現状、ガーナで活躍されているシニア及び青年海外協力隊員の方々の姿にスポットをあてることで、様々な人々の生き方にふれさせる。
 - 本学習を通して「本当の豊かさ」とは何かを考え、これまでの自分を振り返り、今後の自分自身の生き方について考えさせる機会とする。

◆授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	いろいろな笑顔の人たちの心の中を想像してみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に貼られた自分の写真も含めた様々な異なる国籍・年代の人たちの笑顔の写真から、なぜ笑顔なのかを想像し発表しあう ・写真中のガーナの子供達とこの夏、直接教師が接してきたことを話し、ガーナの事について学習していくことを知る ・次時までにガーナについてどんなことでもよいので1つ以上調べてくる(位置、特産品、歴史、観光、気候、食べ物、国旗、人口等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生全児童の写真を含んだ様々な国籍、年代の人たちの顔写真(約120枚)
2	ガーナを知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に出されていた課題を発表し合う ・ガーナのイメージを発表しあう[ビデオ視聴と教師の補足説明] 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図、地球儀 ・ガーナで撮影したVTR資料(ガーナの町並みの様子) ・ワークシート ・野口英世の伝記
3	ガーナと日本を比べてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージ(町の様子、食べ物、小学校、子供たち、家、スーパーマーケット、露天、行商)[ビデオ視聴と教師の補足説明] 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナで撮影した写真資料 ・ガーナのVTR資料(コミュニティの様子) ・ワークシート
4	ガーナの子供たちについて知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・物ランゲージ(紙幣、硬貨、ガーナの遊び道具、ガーナの教科書、ガーナの楽器) ・ガーナの中学生のアンケート資料の配布と教師の補足説明[ビデオ視聴と教師の補足説明] 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナで撮影した写真資料 ・ガーナで収集した品物 ・ガーナで撮影したVTR資料(子供たちの遊びや学習の様子) ・ワークシート ・ガーナの中学生のアンケート資料
5	ガーナの子供たちの笑顔の秘密を探ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナの子供の写真から、物質的に恵まれていない状況の中での笑顔について、自分の笑顔になる時の事を想起し対比しながら考える ・「本当の豊かさ」とは何かについて考え、意見交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナで撮影した写真資料 ・ワークシート
6	ガーナで活躍するシニア海外ボランティア・青年海外協力隊	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA青年海外協力隊、シニア海外ボランティアの資料を見て海外協力隊の概要を知る[ビデオ視聴と教師の補足説明] ・ガーナで活躍する青年海外協力隊員、シニア海外ボランティアの小学校時代の話や隊員になったきっかけ、思いから受けた感想を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA資料 ・ガーナで撮影したシニア及び青年海外協力隊員のインタビューVTR資料 ・ワークシート
7	自分の生き方を振り返ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り感じたことや考えたことを話し合う ・今の生活やこれからの自分の生き方について考えたことをまとめ、発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのワークシート発表用原稿

田中 紀子
報告書①

古野 匠子
報告書②

村木 啓司
報告書③

星野 美由姫
報告書④

風明 堅一郎
報告書⑤

山崎 知代子
報告書⑥

祝迫 直子
報告書⑦

河毛 樹
報告書⑧

森 泰三
報告書⑨

安部 一実
報告書⑩

参考資料

◆授業の詳細

1 時 限 目 いろいろな笑顔の人たちの心の中を想像してみよう

笑顔をもたらす要因を子供達の意見から集約し、ガーナの子供達の笑顔の内面を予想する。



児童の感想より

- ・どこの国の人かな? ・遊びのことを考えている
- ・みんな笑っているから楽しい気持ちになる
- ・ごちそうのことを考えている ・友達のことを考えている
- ・カメラが珍しい ・写真を撮っている人が珍しい
- ・友達と一緒に ・両親のことを考えている
- ・笑顔はみんな一緒だな ・好きな人のことを考えている

2 時 限 目 ガーナを知ろう

ガーナの概要を知る。地図上で位置を確認する。野口英世について知る。



児童の感想より

- ・アフリカの国 ・黒人が奴隷で売られていた国
- ・暑いときは50度近くになる ・カカオが有名
- ・ガーナチョコレート王国 ・貧しい国 ・金がとれる
- ・野口英世が渡った国 ・伝染病がある国 ・国旗 ・歴史

3 時 限 目 ガーナと日本を比べてみよう

生活の様々な様子から日本と違うところや似ているところを見つける。開発途上国としてのガーナの現状を知る。(戦後の日本と同じ状態に近いことを知る)



児童の感想より

● 違うところ

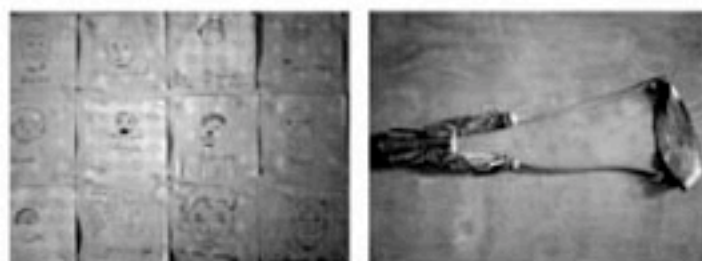
- ・肌の色が違う ・服が違う ・言葉が違う
- ・荷物の持ち方が違う ・家の造り(素材や構造)
- ・町に高い建物があまりない ・子供たちが上半身裸
- ・寄生虫や伝染病がいまだにある ・料理や食べ方が違う

● 同じところ

- ・食べ物(餅やご飯みたいな食べ物がある)
- ・子供の遊び(「けんけんば」みたいな遊びやバチンコ)
- ・スーパーが日本と同じ様な感じ ・日本の自動車

4 時 限 目 ガーナの子供たちについて知ろう

ガーナの子供たちの様子から同じ国の中に住む子供たちにも著しい格差が存することを知る。ガーナの子供たちの考えの一端を知る。





児童の感想より

- ・計算のやり方がおもしろい(教科書から)
- ・釣り竿が手作りなのでびっくりした
- ・田舎の子供たちは勉強してるんだらうか?
- ・町と田舎の学校では服(上半身裸と制服)や学校の様子が違いすぎて驚いた
- ・ほとんどの子供が神様を信じ、尊敬している事に驚いた
- ・朝起きて掃除する子供が多いのに驚いた
- ・英語やフランス語ができることがすごい
- ・日本の印象で四季がある国という意見が多かったが、自分は、当たり前のことだと思っていた

5 時 限目 ガーナの子供たちの笑顔の秘密を探ろう

物質的、将来的に決して恵まれているとはいえない
 ガーナの子供たちの笑顔と、自分が笑顔になる時の事
 を比較しながら「本当の豊かさ」について考える。



児童の感想より

- ・今の生活に満足しているから?
- ・なぜ笑顔が出るのか分からない
- ・価値観が違うから
- ・ガーナの子は今の状態に満足しているから
- ・ガーナでの生活が当たり前と思っているから
- ・他の国のことを知らないから
- ・自分たちは、いろいろな物がすぐ手に入る日本になれているから、当たり前と思っていることが多い
- ・何でも手に入る(物) = 豊かさじゃないと思う
- ・家族がいるだけで豊かな気持ちになるかも

6 時 限目 ガーナで活躍するシニア海外ボランティア・青年海外協力隊

JICAの青年海外協力隊及びシニア海外ボランティアについて知り、ガーナで活躍する青年海外協力隊員、シニア海外ボランティアの思いや生き方を知る。



児童の感想より

- ・青年海外協力隊という仕事をはじめて知った
- ・貧しい国や伝染病のある国に自分から進んでいくなんですごいと思う
- ・隊員の人たちも子供の頃は自分たちと一緒にいたんだな
- ・大変な国にいるのに笑顔で楽しそうだ
- ・自分でもやれるんだらうか
- ・直接隊員の人と話して質問してみたい
- ・伝染病とか怖くないのかな

田中 紀子
報告書①

古野 匠子
報告書②

村木 啓司
報告書③

重森 美由紀
報告書④

黒明 堅一郎
報告書⑤

山崎 知代子
報告書⑥

祝迫 直子
報告書⑦

河毛 樹
報告書⑧

森 亮三
報告書⑨

安部 一夫
報告書⑩

参考資料

児童の感想より

私は、今度の授業を通してアフリカのガーナという国の事を少し理解することができました。同じ小学生の中でも学校に行ける子と行けない子、きれいな制服を着ている子と裸の子がいること、勉強している内容が違うことなど、同じ国にいるのにどうしてそんなことが起こるのかと思いました。日本はいい国なんだなとあらためて思いました。

僕は、自分たちと違う生活や考え方があることを知りました。お金があれば豊かになれると思っていましたが、お金や物がなくても豊かな気持ちになれるんだなと何となく思いました。また、いろいろな物があるのがあたりまえだと思っていました。今の生活に感謝しなければいけないと思いました。

今まで人のためとか思ったことはなかったけど、困っている人を助けることができる方法がいろいろあるんだなと思いました。また、ふつうの人でもできることも分かりました。僕にも何かできるかも知れないと思いました。

❖ 成果と課題

成果として、子供たちの外国のイメージが欧米だけでなく、アフリカにも広げることができた点が挙げられる。また、子供たちはガーナと日本の違いに気づき、ありのままを感じ取り、素直に受け入れていた。そして、ガーナの子供たちや青年海外協力隊員の様子から、あたりまえと思っていた裕福な日本の現状と恵まれた自分たちの境遇を認識させることができた点が成果といえるのではないかと思う。

本実践を振り返り、教師自身の様々な体験が、教材研究や授業にいきてくること、子供たちに響くことを実感した。フォトランゲージの場面では、村の子供たちの顔の傷や、一般的な食事の仕方などを奇異に感じた子供たちに、私が見聞きした体験を伝えることにより、それは国と国の文化の違いであり、その国ではあたり前のことだと気づかせる事ができたのがその一例である。

課題としては、「各学年に即したカリキュラムの内容について」「ワークシートを活用した個に応じた支援の方法」「指導過程や評価の方法」等が挙げられる。

今回、海外研修、それを基にした実践で学んだことを大きな糧として、今後の国際理解教育や授業実践にいかして行きたいと考える。